

「新しい社会システムデザインに向けた情報基盤技術の創出」
2017 年度採択研究者

2018 年度 実績報告書

永田 亮

甲南大学知能情報学部知能情報学科
准教授

新しい学びの形態を実現するための問題自動解説技術の開発

§ 1. 研究成果の概要

本研究のねらいは、学習者の英語の作文に対して、学習活動を促すような解説文を自動生成する手法の実現にあります。このような技術の実現を目指して、《課題 1》解説文自動生成のための基盤データの整備、《課題 2》解説する箇所を同定し、解説文を自動生成する手法の開発、《課題 3》教科書や辞書などの外部知識との連携による解説文の精緻化、に取り組んでいます。

本年度の成果は 次の通りです。

《課題 1》: 基盤データ整備のためのガイドラインを策定し、一般的な解説文と前置詞の用法に特化した解説文の二種類の基盤データを構築しました。概要は表 1 のようになります。

表 1: 構築した基盤データの概要

解説文の種類	文書数	文数	解説文数
一般解説文	2,407	35,372	40,827
前置詞解説文	1,303	19,856	3,997

《課題 2》: 構築した基盤データを用いて、前置詞の用法および be-動詞の用法に関する解説文を自動生成する手法を考案しました。図 1 に、この手法の出力サンプルを示します。

《課題 3》: 《課題 2》で考案した手法で、文法書などの外部知識へのリンクを生成する工夫をしました。これにより、自動生成した解説文と外部知識への連携が一部実現しました。

